

名蔵アンパル及び流入河川流域 環境カルテ  
(概要版)



令和2年3月

名蔵アンパル保全・利活用推進協議会

## はじめに

名蔵アンパル (Nagura Amparu) は石垣島の西岸に位置しており、於茂登連山、バンナ岳、前勢岳の流域の水が集まる広大な湿地であり、その前面には名蔵湾が広がっている。名蔵アンパルにはオヒルギ、ヒルギモドキ、ヤエヤマヒルギなどが構成するマングローブ林が広く分布しており、このマングローブ林は環境省により特定植物群落「名蔵川河口域のマングローブ林」に指定されている。干潟には魚類、甲殻類、貝類などが豊富にみられ、それらを餌とするシギ・チドリ類やサギ類などの鳥類にとって貴重な飛来地・生息地となっている。環境省は、特異な動植物からなる生態系であることと渡り鳥の個体数が多い湿地として、「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」に指定している。

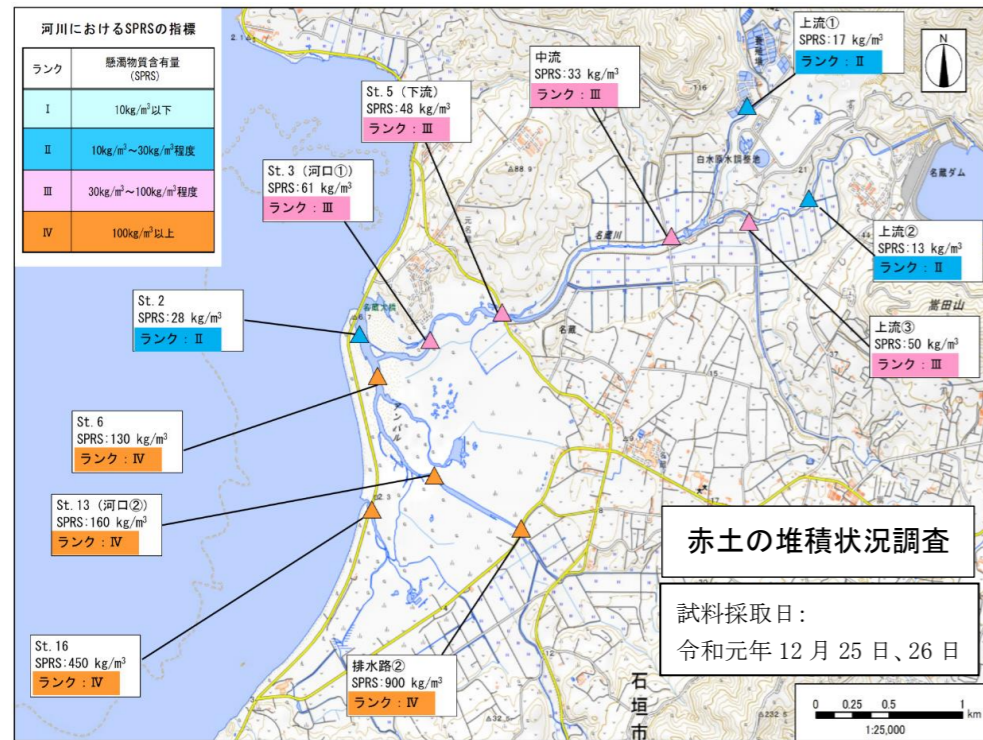
また、名蔵アンパルは、亜熱帯気候特有の動植物が分布し、貴重な野鳥の飛来地、生息地であることから、2003年には「国指定鳥獣保護区・特別保護地区」、その後、亜熱帯地域における典型的かつ多様な自然環境がまとまって存在すること、多くの水鳥や特別天然記念物であるカンムリワシなど多様な鳥類の生息地であること、底生動物等の多様性が高いことから、2005年には「ラムサール条約登録湿地」に、2007年には「西表石垣国立公園」の拡張に伴い編入された。

このように国際的に価値のある素晴らしい自然環境が存在しているが、近年は陸地からの土砂流出、水質の悪化、外来生物の侵入、人によるゴミの投棄や不適切な利用などが課題となっている。そのため、名蔵アンパルの自然環境保全や再生の推進を行い、自然豊かな環境に多くの人々が訪れ、自然と触れ合い学べる場を維持・活用することで、地域の活性化にも寄与することを目的とした保全・利活用計画策定のための基礎資料として「環境カルテ」を作成した。

### 1. 生活環境

#### 【赤土の堆積状況】(下図参照)

- ・上流③に赤土等の堆積がみられる。
- ・中流から河口になるにつれ、赤土等の堆積傾向が大きくなる。
- ・浦田原排水路流域下4地点(排水路②、St. 6、St. 13、St. 16)において、赤土等の堆積が顕著にみられる。

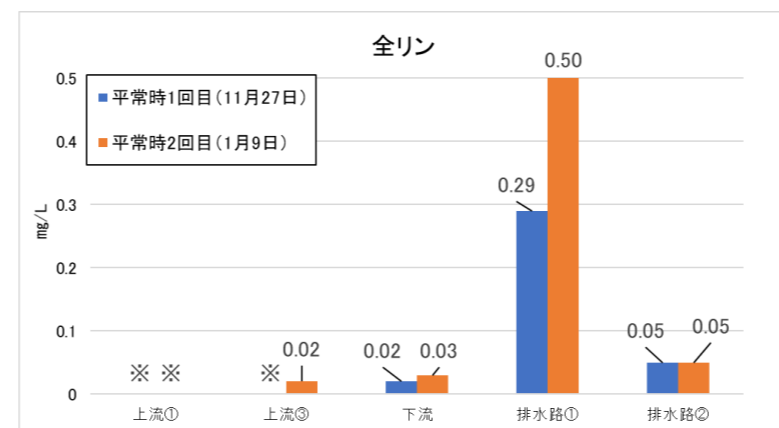
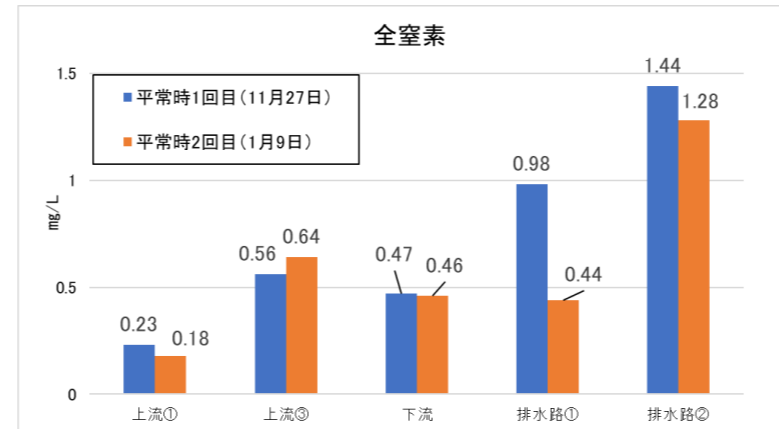


ランク	懸濁物質含有量 (SPRS)	底質の状況
I	10kg/m <sup>3</sup> 以下	底質を掘り起こすと茶色っぽく濁る程度。赤土の堆積は見られない。河床に砂分が少なければ赤土の流入はあまりない。
II	10kg/m <sup>3</sup> ~30kg/m <sup>3</sup> 程度	赤土の堆積はほとんど見られない。底質を掘り起こすと河川水が赤土で濁るのがわかる。若干赤土が流入している可能性がある。
III	30kg/m <sup>3</sup> ~100kg/m <sup>3</sup> 程度	河川表面にうっすらと赤土の堆積が見られる。歩くと河川水が濁る。底質を掘り起こすと河川が赤土でかなり濁る。
IV	100kg/m <sup>3</sup> 以上	河床表面に赤土が堆積。足が沈み込む。上流域に大規模な流出源がある。あるいはあった。

注) SPRS と底質の状況 (沖縄県保健医療部衛生環境研究所)

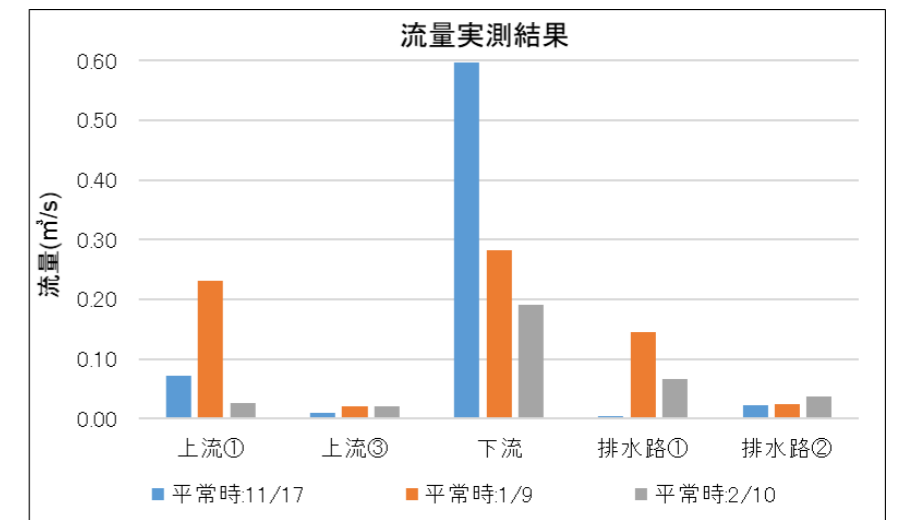
#### 【水質】(下図参照)

- ・上流③と排水路②の全窒素および全リンは、農地の肥料成分の流入、排水路①は工場排水の流入等によると考えられる。



#### 【流量】(下図参照)

- ・排水路②(浦田原排水路)については、河道規模に対し、流れがほとんどなく、流量が少ない。排水路出口の堆積土砂により堰き止められていることにより湛水している。



## 2. 自然環境

### 【現存植生】(右図参照)

・流域北側山地はケナガエサカキ-スダジイ群落、南側山地にはケナガエサカキ-スダジイ群落とボチョウジ-イジュ群落が多くみられる。流域中央部(アンパルを除く)は、畑雑草群落が広がっており、山地沿いの斜面や丘にはハドノキ-ウラジロエノキ群団(二次林)、牧草地等がみられる。アンパル内は、マングローブ群落、ヨシクラス、アダン群団等で構成されている。

### 【植生の変遷】(下図参照)

・浦田原排水路竣工後、出口付近にマングローブ林が拡大している。



1977年(浦田原排水路竣工前)

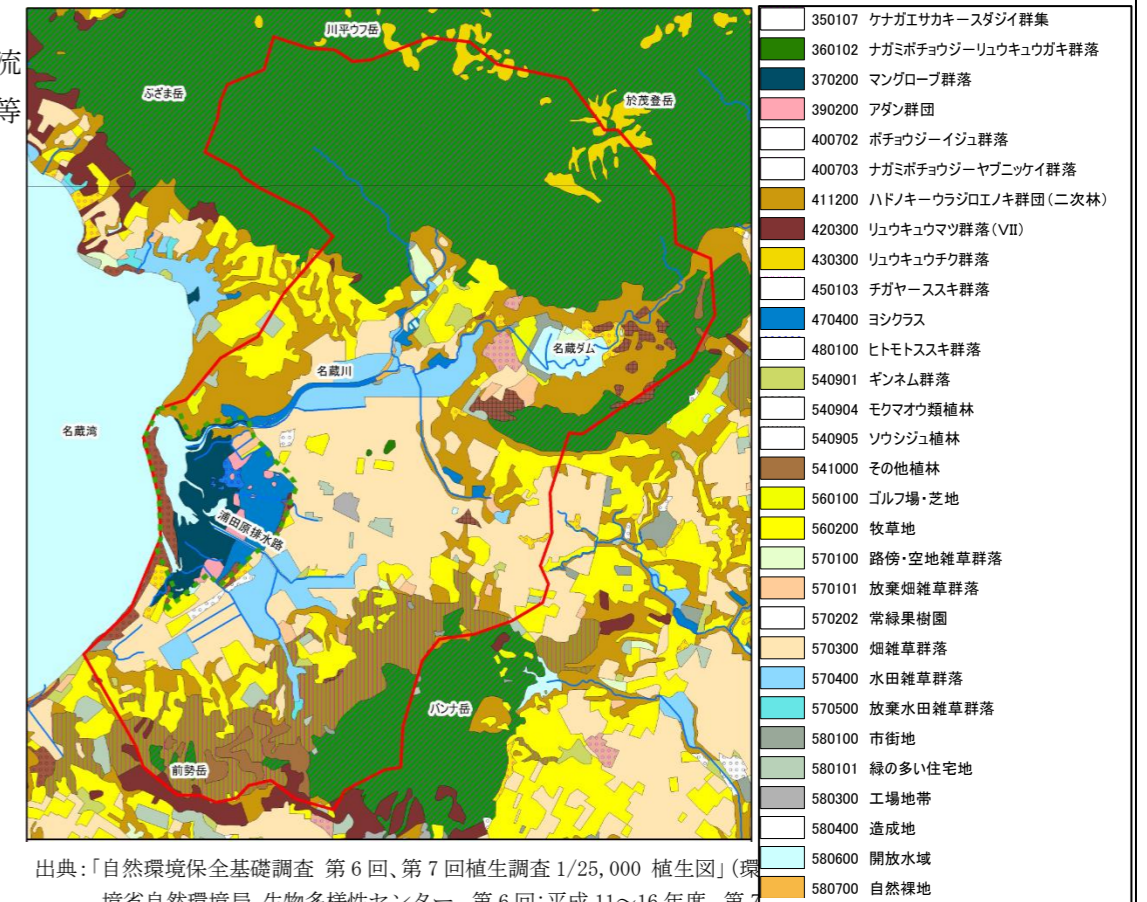
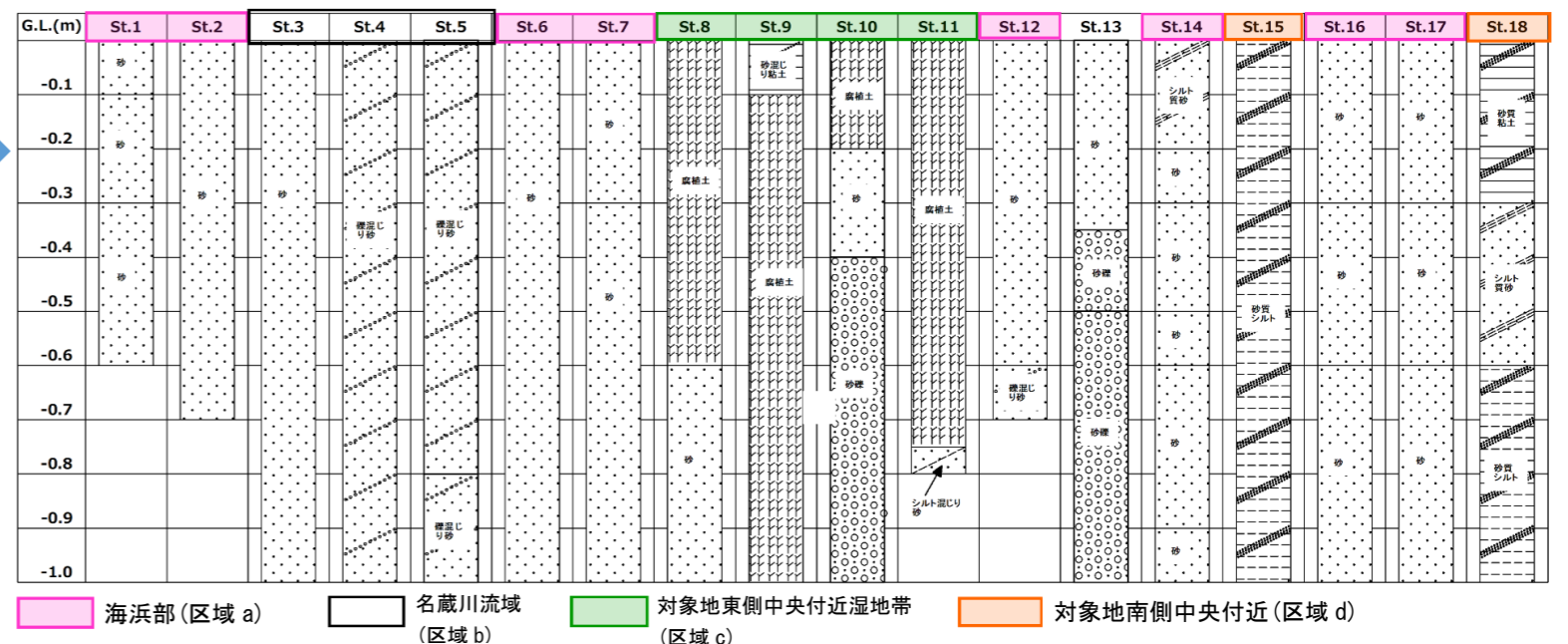
1995年(浦田原排水路竣工後)

出典: 地図・空中写真閲覧サービス(国土地理院)

### 【生物相】(下表参照)

・既存文献から名蔵アンパル及び流入河川流域において合計1690種の生物を確認した。

分類群	種数	貴重種	生態系被害防止外来種
植物	537種	67種	17種
哺乳類	5種	4種	1種
鳥類	218種	68種	2種
爬虫類	20種	9種	1種
両生類	11種	3種	3種
昆虫類	538種	38種	0種
魚類	94種	13種	3種
大型底生動物	267種	53種	1種



出典: 「自然環境保全基礎調査 第6回、第7回植生調査 1/25,000 植生図」(環境省自然環境局 生物多様性センター、第6回:平成11~16年度、第7回:平成17年度~)

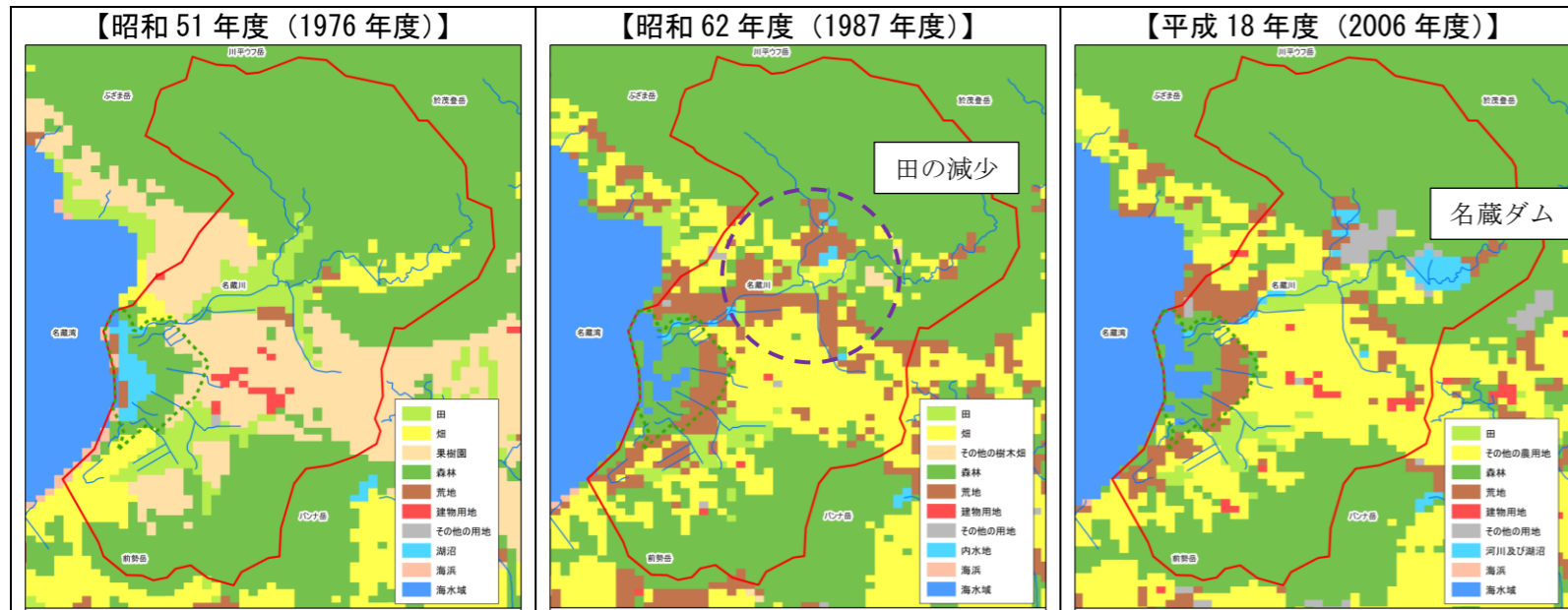
### 【マングローブ林内の土砂の堆積状況】(下図参照)

・名蔵アンパルの土砂の堆積状況は、図で色分けされた4区域に概ね分けられる。

### 3. 社会環境

#### 【土地利用状況】(下図参照)

・1987年度の田の減少及び2006年度の名蔵ダム建設が当該地域における土地利用の大きな変化とみられる。



出典：「国土数値情報土地利用細分メッシュデータ（昭和51年度～平成26年度）」（国土交通省国土政策局HP）を改変、「土地利用現況図」（沖縄県土地対策課2016）

#### 【環境保全関係法令・規制等】(下表参照)

・名蔵アンパル流入河川流域は、8つの環境保全関係法令・規制等に該当する。

No.	環境保全関係法令・規制等	指定状況
1	「環境基本法」：水質汚濁に係る環境基準の種類の指定状況	名蔵川（A類型）
2	「自然公園法」：国立公園、国定公園、都道府県立自然公園の区域	「西表石垣国立公園」：名蔵アンパル及び於茂登岳山麓等が該当
3	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」：鳥獣保護区	「国指定名蔵アンパル鳥獣保護区」：名蔵アンパル及び前面海域、「国指定名蔵アンパル特別保護地区」：名蔵アンパル
4	「ラムサール条約(特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)」：登録湿地	「名蔵アンパル」
5	「文化財保護法」：名勝又は天然記念物又は重要文化的景観	名勝「川平湾及び於茂登岳」：於茂登岳山麓の一部が該当
6	「森林法」：保安林	名蔵アンパル及び流入河川流域の一部が該当
7	「石垣市自然環境保全条例」：保全種の保護地区	於茂登岳周辺が該当
8	「自然環境の保全に関する指針」：区域区分	名蔵アンパル流入河川流域が、「自然環境の保護・保全を図る区域」、「自然環境の保全を図る区域」、「身近な自然環境の保全を図る区域」に該当

#### 【人口・世帯数】

・平成27年度国勢調査における石垣市字名蔵の人口総数は366人、世帯総数は147世帯である。

#### 【住宅の分布】

・名蔵アンパル流入河川流域の中心部に住宅地域が集中する。

#### 【学校の分布】

・名蔵アンパル流入河川流域には、石垣市立名蔵小中学校及びびなぐら幼稚園がある。

#### 【NPO法人等における環境活動状況】

・名蔵アンパル流入河川流域において、「アンパルの自然を守る会」及び「カムリワシ・リサーチ」等が自然観察会や啓発活動等の環境活動を行っている。そのほか、名蔵小中学校の学生による清掃活動が定期的に行われている。

#### 【開発動向】(下図参照)

・名蔵アンパル流入河川流域では、各種ほ場整備事業（1999年までに完了・供用）、名蔵ダム（1998年竣工）、バナナ公園（1994～2009年にかけて順次供用）、石垣やいま村（1981年設立）等の開発がみられる。また、令和2年現在において、前勢岳北側にゴルフ場開発計画がある。



出典：「沖縄県地図情報システム 主要施設整備開発基本図H30」（沖縄県土地対策課2019）